

静岡県立富士高等学校

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	日常的な授業改善への取組等を通し、生徒の主体的な学びを促し、学力の向上を図る。	●「授業(分かりやすさ、意欲等)は概ね適切」と答える生徒・保護者 90%以上	生徒 91.2% 保護者 78.4%	B	生徒の肯定率が下がっている原因を探る必要がある。一方、保護者に対しては、どのような方法をとれば「授業」について知ってもらえるのか検討する。また、生徒の声を聴きながら授業改善に取り組み、分かりやすい授業を目指す。
		●「授業改善に取り組んだ」と答える教員 100%	100.0%	A	互いの授業を見学したり、様々な研修を活用したりして、教員が自ら授業改善をする機会を持つ。
		●「タブレットを効果的に授業に活用している」と答える教員 100%	95.8%	A	タブレットを使った授業の工夫を一層すると同時にICT活用した授業が生徒の学力にどのように影響を与えているかを検証する。研修等を通して効果的に活用できているので継続する。
		●「主体的に学習に取り組んでいる」と答える生徒・保護者 85%以上	生徒 85.5% 保護者 83.9%	A	本意ではないが主体的に取り組めない生徒に対して、課題や小テスト等何らかの取り組みが評価されたと思われる。今後もこのように答える生徒が増えるように、学習環境を整えていく。
		●「学校は生徒の学力向上に努力している」と答える生徒・保護者 80%以上	生徒 95.3% 保護者 88.5%	A	昨年度より学習の手応えを感じている生徒及び保護者は増えている。
		●理数科生徒及び担当教員課題研究への満足度の向上		B	週2時間の理数探究として、流れは完成した。次年度は課題研究の充実・発展に向けて取り組みを進める。
		●各種行事生徒満足度 4.5 以上(満点 5.0 点)	4.7 点	A	サイエンス行事の生徒満足度は4.7であった。学年を越えた理数科クラスの交流を増やす試みを検討する。
イ	高いところざしを育み、進路実現を図る、計画的・組織的・継続的な進路指導を実践する。	●「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている」と答える生徒・保護者 85%以上	生徒 90.9% 保護者 80.1%	A	タブレットに目標を入力するなどしてポートフォリオ的なものを作ったり、必要な情報へのアクセスの方法を提示したりしていることがこの結果に表れている。保護者への情報提供により、理解を共有していく。
		●「学校は、生徒の進路希望実現のために適切な情報を提供している」と答える生徒・保護者 85%以上	生徒 90.4% 保護者 75.7%	B	生徒に対する情報発信は行えているものの、保護者に対する情報提供については十分とは言えず、今後の課題として改善に取り組む必要がある。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ	富士高生にふさわしい品位ある態度や行動を促すとともに、リーダーとしての社会性や国際感覚を育む。	●「学校は基本的な生活習慣を身に付けるよう適切な指導をしている」と答える生徒・保護者 90%以上	生徒 93.6% 保護者 84.1%	A	肯定率が高く、概ね達成できている。
		●「頭髪、服装指導等、学校の生徒指導に共感できる(理解している)」と答える生徒・保護者 90%以上	生徒 88.3% 保護者 91.3%	A	校則や服装等、生徒の意見も引き続き取り入れていき、その過程も共有していく。
		●「富士高生のモラルやマナーはよい」と肯定する生徒・保護者 90%以上	生徒 88.6% 保護者 95.3%	A	SNS 利用のモラル・マナーについて、指導の機会を設け人権意識を高めていく。
		● 国際感覚の涵養等に資する研修会等への参加生徒の増加	38 人参加 (昨年 53 人)	C	研修に参加する意欲を持っている生徒は多いが、日程や費用面なども大きく影響してこの結果だと考える。
		● 自転車事故件数 15 件以下	7 件	A	4月から交通違反の青切符が開始されるため交通ルールを遵守する意識を高めたい。
		●「学校の交通事故等に関する指導は適切である」と答える生徒・保護者 90%以上	生徒 86.3% 保護者 79.2%	A	生命のメッセージ展等、定期的な注意喚起が有効であった。
		● いじめ0件	1 件	B	人権意識高める指導を通して、落ち着いた学習環境を整える。また、生徒の観察、声掛けを続けていく。積極的ないじめの認知は行っていく。
		● 非行等の問題行動0件	1 件	B	SNS の利用やスマートフォンの活用に関してネットリテラシーの向上を図る。また、生徒の観察、声掛けを続けていく。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	豊かな感性を育み、心身の健康の保持・増進を図る。	● 学校図書館の蔵書の貸出数 1500 冊以上	1,669 冊	A	12 月の時点で貸出数1600を超え、昨年度叶わなかった「目標」を達成した。感想文コンクールでは全国上位入賞の作品を送り出すことができた。
		●「学校は生徒の健康、安全、衛生面に配慮している」と答える生徒・保護者 85%以上	生徒 83.3% 保護者 79.2%	B	生徒・保護者ともに、わからないという選択を除けば目標値を上回っているのので、引き続き配慮を継続する。また、情報発信をすることで、「わからない」という選択を減らすことが課題。
		●「学校は悩みや相談に適切に対応している」と答える生徒・保護者 80%以上	生徒 79.5% 保護者 73.8%	B	担任を中心に学年団で協力して悩みや相談に応じた。また、SC、SSW の専門的知見も生徒や保護者の悩みを整理するのに役立った。クラス作りのプログラムの工夫、相談室有効活用が課題。
		●講演会等の実施	実施済	A	薬学講座、思春期講座ともに、充実した内容で実施することができた。DV に関しては、不快な思いをした生徒が若干名いたので、内容については事前に配慮する必要がある。
		●学習環境の改善・安全対策修繕 10 か所以上	21 か所	A	2学期の大掃除時に、安全点検表を活用したことにより、教室修繕がスムーズにできた。今後は、危険個所の早期発見の手法を検討していきたい。
オ	組織的な学校運営と家庭・地域等への情報発信により、信頼関係を築く。	● 週に 1 回以上、学校ホームページ等を更新する。	92 回	A	週2回のペースで記事の更新ができたが、更に充実するように検討していきたい。インスタグラムを本格的に立ち上げ、150 件投稿し、学校の様子を発信した。
		●「学校からの情報は内容に富み参考になる」と答える生徒・保護者 80%以上	生徒 75.5% 保護者 81.7%	B	保護者への連絡は Classi 等で直接連絡することで高い評価が得られたと思われる。生徒の肯定的意見も上昇しているが、連絡を見ずにいる生徒も一定数見られることから、生徒にはまず情報を見て分別精査する力をつけて欲しい。引き続き、生徒や保護者がどのような情報を求めているかを考えながら情報を発信していく。
		●「研修等を通し、不祥事根絶に向けた意識が高まっている」と答える教職員 100%	98.1%	B	研修やヒヤリハットの共有から意識を高めるようにした。日常の注意喚起や声を掛け合うことで、意識の低下を招かないようにした。今後も研修に加え、持続的な取組を実施していく。
		●「防災意識が高まった」と答える生徒・教職員 80%以上	生徒 84.5% 教職員 94.4%	A	防災の想定訓練として「HUG(避難所運営ゲーム)」を使ったグループワークを実施した。仮想空間の中で生徒自身が想像をめぐらし、自らが取るべき行動を認識することができた。また、グループ活動を実施することで生徒一人一人が意識の共有をすることができた。
		●「家庭で防災に関する話し合いを行った」と答える生徒・保護者 50%以上	生徒 63.0% 保護者 72.9%	A	防災訓練や防災講座を通して啓蒙を行い、被災時の行動等について意識が高まった。防災に備える具体的な準備など学んだことを家庭でも話し合えるような手立てを工夫していきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
カ	適切な事務の執行を行い、信頼される事務室を目指す。	● 監査における指摘0件	0件	A	根拠を確認しながら事務を行うことで、適切な事務執行ができています。今後も、起案時における根拠資料の添付を徹底するとともに、広い視野と時間にゆとりを持った業務の着手を行い、不適正な事務処理の防止を図っていく。
		● 経営予算執行残が0.5%未満	達成	A	予算執行状況の随時確認と定期的な予算執行の呼び掛けにより、予算執行残を最小限とすることができた。今後も、効率的かつ効果的な予算執行を行うため、こまめな声掛けや確認を行っていく。
		● 施設設備における事故発生0件	0件	A	危険箇所や不具合箇所は、早期に改善しており、施設設備における事故は発生していないが、危険箇所等の発生から発見までに時間を要していることがあるため、破損・故障箇所を早期に発見(認知)できる仕組みを考えていく。
キ	働き方改革を踏まえた業務改善を推進する。	● 1分掌1業務改善の提言	13分掌中 12分掌	B	12/13分掌の業務改善を行った。見直しをさらに行っていく。
		● 「部活動ガイドライン」の趣旨を遵守している部活動100%	90.0% (12/31時点での平日・休日の休養日数達成率)	B	ガイドラインに遵守している部活動90%であった。来年度の下校時間を30分早め、さらにガイドライン遵守を目指す。
		● 年休取得前年度比増(最低5日以上)	4.8%増加	A	4.7%上昇し、目標は達成できた。更に業務改善等を行い、休みやすい環境づくりを推進する。
		● 時間外業務の対前年比5%減少	3.0%減少	B	3.0%の減少であった。全体的に時間外勤務の量は減ってはいるが、各分掌等で抜本的な業務見直しを図ることで、時間外業務を減らし、職員の健康維持に努める。